資料室

2025 年度自由学園資料室の活動記録

菅原然子

2025 年度の資料室活動中、比較的規模の大きかったものは、夏の特別展示「現在（いま）は戦後か戦前か」、その延長上であった JIYU1123 での展示「自由学園と戦争」だった。また、2023 年から申請作業を行っていた内閣府管轄の「ジャパンサーチ」との連携が実現した。

【展示】

資料の利活用は資料室の重要な任務の一つである。所蔵資料は適切な保管と同時に、組織構成員が利活用することが資料の存在価値を高める。

展示は利活用のための代表的な方法の一つであり、今年度資料室では下記の展示を行った。

1.自由学園開校の頃（4月）

入学式のある月なので、開校式の写真、6回生（最初に入学した本科生）のノート、時間割表などを展示した。



展示全景



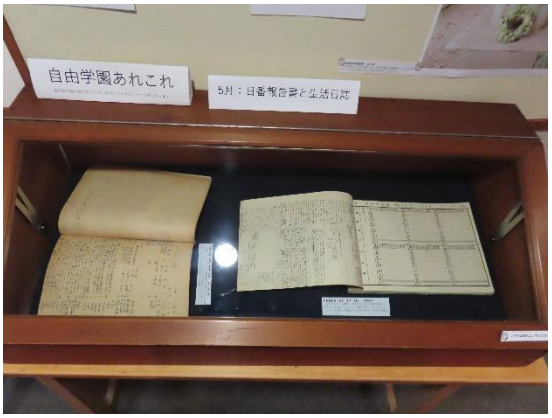
ガラスケース内

2. 日番報告書と生活日誌（5月）

探求や共生学で利用の多い日誌資料を扱った。現在も続く日番報告書の初期（1942 年～）のものを展示した。



展示全景



ガラスケース内

3. 遠足（6月）

中等部（蝶ヶ岳）、高等部（尾瀬）の遠足に際して、過去にその2か所に遠足をした年のしおりや写真を中心に展示した。

4. 戦後80年特別展示「現在(いま)は戦後か？戦前か？」

(詳細は巻頭の平和特集「展示「自由学園と戦争」」参照)

①「戦争の記憶・記録を訪ねてみよう」(7～10月)

戦後80年の年であることを鑑み、自由学園～東久留米～東京～国内外の各地に残されている戦争の記憶・記録に関わる場所を紹介し、夏休みに地元の戦跡などを訪ねてみる呼びかけを行った。

②「戦争の記憶・記録を訪ねてみた」(10～11月)

夏休み中に戦跡などを訪ねた人のレポート(初等部、中高大)を展示した。グーグルマップのマイマップ機能を使い、実際に訪ねた場所に各自でポイントしてもらい、pc 上で各場所や訪ねての感想がみられるようにした。

③JIYU1123「自由学園と戦争」(11 月 23 日～)

JIYU1123 にて、「自由学園と戦争」をテーマに図書館で特別展示を行った。幼児生活団、初等部、女子部、男子部の資料を展示し、解説パネル等も準備した。

5. 友の会大会(5 月)

5 月 21 日、22 日に自由学園で行われた友の会大会にて、展示を行った(於記念講堂2階応接室)。昨年修復を行った『羽仁もと子著作集第9巻　家事家計篇』の台割をはじめ、同書の直筆原稿の現物および複写のものを展示した。同時に、著作集がどのように編まれたかのパネルも展示した。当日は多くの参加者が足を運んでくださり、特に昼休みは大盛況となった。



当日会場



昼休みに見学してくださるお客様の様子

6. 平和週間(10～11 月)

平和週間に関連して、映画「予言」(羽仁進監督 1982 年)、橋爪文さんによる被ばく証言、前泊博盛さんによる沖縄の現在に関するお話に関連する図書を展示した。

7. 新聞展示(7月～)

図書館資料の利活用及び、時事問題への関心をたかめることを目的に、最高学部講師の西崎香氏(国際ジャーナリスト)の提案で新聞展示コーナーを設置した。テーマは以下である。

10 月

・高市内閣発足

・安保3文書について

・都議会控室工事(税金の使い方)

・戦後 80 年所感から

11 月

・初の女性首相

・クマの出没

・「内申書」について

2026 年 1 月

・解散総選挙

・トランプ外交

・パンダが日本にいなくなる

2 月

・総選挙結果／自民圧勝

3 月

・イラン戦争について

各項目について、西崎先生に解説を書いていただき、新聞記事を展示した。図書館入り口入ってすぐ左のコーナーを新聞コーナーとし、普段新聞に親しみのない生徒学生たちの目に留まりやすいように心がけた。関連図書などの展示、自由に持ち帰れる新聞を置くなどの工夫もしたが、それほど利用はなかった。

【授業・講演他】

1. TLP「自由学園を知る」

昨年度に引き続き、資料室員 2 名が中等部 1 年、高等部 1 年の TLP「自由学園を知る」の授業を担当した。ノートをとることを励まし、テストにかえて「TLP 新聞」の作成を行った。授業では内容に関係する一次資料も見せた。

2. 探求・共生学

ここ数年、探求や共生学で自由学園の歴史資料を扱う生徒が増えてきた。今年度も日番報告書（1940年代からの者が残っている生徒が書いてきた日録）や、各種記録など、主に歴代の生徒が残してきた記録を閲覧、参照する生徒が多かった。

授業の際には適宜レファレンスを行い、知りたいことに一番近づける資料が何かを探す手助けを行った。

3. 初等部 6 年生社会科「戦時下の初等部」

昨年度に引き続き、今年度も 9 月 10 日に初等部 6 年生の社会科授業にて「戦時下の初等部」について室員が授業を行った。主に疎開について伝えた。

4. 保護者会主催読書会

今年度は保護者会主催読書会にて 3 回、室員が講演をした。テーマは主催者と相談の上、「羽仁夫妻の家庭教育と学校教育」「体操会の歴史」「家庭・学校・社会を結ぶ自由学園の教育」とした。また、中等部 2 年の学年保護者会読書にて、「そもそも羽仁もと子著作集ってなに？」というテーマでお話しした。学園で初めて羽仁もと子著作集に触れる方へ、著作集がどのようなものであるか、著者である羽仁もと子、編集者である羽仁吉一の生涯も含め、概論的なものをお伝えした。

5. 学内向け講演

生徒、教職員向けに依頼講演を行った。創立記念日や生徒の委員会選挙の日などにそれらにちなんだ歴史について共有した。教職員向けには、主に、初等部からの依頼で、草創期の生活や教育など理念にかかわる部分について、歴史的背景と共に紹介をした。

【ジャパンサーチ連携】

1. 連携のきっかけ

ジャパンサーチは日本国内のデジタルアーカイブ（DA）のハブ機能のあるサイト（つなぎ役）を連携させ、利用者が国内 DA の複数のデータベースについて横断検索ができるサイトである。モデルは、EU の「Europeana」（ヨーロピアーナ）と言われている。

自由学園は 2021 年に創立 100 周年記念事業として DA「自由学園 100 年＋」を開設した。それを機に、室員がデジタルアーカイブ学会へ入会したが、DA 学会主催の研究会に参加した際に、ジャパンサーチ実務担当の国立国会図書館（NDL）職員とつながり、興味がある旨を伝えると「ぜひ登録申請をしてみて」と言われた（2022 年頃）。

そこで室員が調べてみると、その段階でジャパンサーチにて創立者の名前などで検索をかけても、限られた資料しか公開されておらず、できるだけ詳細な情報をユーザーに届けるためにも、連携したいと考えた。

2.「つなぎ役」がない問題と直接連携

ジャパンサーチは、できるだけ多くの DA の DB と連携するため、複数のDAをつなぐ（ハブ）機能を果たしているサイト（つなぎ役）と連携することが基本である。

しかし、そうしたつなぎ役との連携がない DA であっても、利用者の益となるコンテンツを有する DA であるとジャパンサーチから判断されれば直接連携も可能である。

今回自由学園 100 年＋は、特につなぎ役機能のあるサイトと連携しているわけではなく、今後も直近ではそうしたことは実現可能性が低かったため、直接連携を検討した。そして、2023 年 12 月に、直接連携の枠組みで連携希望の申請をジャパンサーチへ行った。

3.「学校」DA との直接連携事例がない

申請後は、ジャパンサーチ側での審査が行われるが、私立学校の申請が初であったこと（大学は事例があるが、それ以外ではなし）で、公共性（宣伝になっていないか）、独自性（他では見られない資料群があるか）などが特に問題

となり、審査には時間がかかった。

また、上記問題と共に、審査をする内閣府の委員の更迭時期と重なったため、新規委員会発足と共に再度審査が行われることとなり、時間がかかった。申請約 1 年後の 2024 年 10 月に担当者へ問い合わせたところ、私立学校の案件を扱う上で、ジャパンサーチのコレクションポリシー（連携方針）の見直しが必要だという議論になり、コレクションポリシーの更新をおこなっているためもう少し待ってほしい、更新が終了したら、再度申請をしてほしい旨、伝えられた。

4. 再度申請を行う

2025 年 1 月、コレクションポリシーの更新および公開が終了した旨、NDL 担当者より連絡があり、再度連携申請にあたってポイントとなる論点（「専ら特定の法人・団体・個人等の宣伝を目的としていないこと」「ジャパンサーチに登録したメタデータの二次利用条件を原則 CC0（著作性のあるものは例外的に CC BY）相当に設定する。」「ジャパンサーチに登録したメタデータに対応するコンテンツの二次利用条件をジャパンサーチ上で明示するとともに、できる限り CC0 相当に設定するよう努める。」）について確認したいとのことで、同年 2 月 3 日にオンラインにて打ち合わせを行った。

その打ち合わせ内容をもとに、学園 DA 側の「資料の公開方針と利用方法について」（利用規約）の更新、および CC（クリエティブ・コモンズ・ライセンス）について各資料にタグを付与した。その際には、DA 作成でお世話になっている㈱HUMI と、資料公開でお世話になっている㈱早稲田システムの協力も得た。その上で同年 3 月 17 日に再度の連携申請を行った。

5. 審査結果と連携作業

2025 年 5 月 12 日、NDL の担当者より内閣府のデジタルアーカイブ推進に関する検討会内で検討され、連携が承認された旨連絡がきた。その後、連携に関する文章の取り交わしを行い、5 月 23 日に NDL 内での決裁が終了した旨連絡を受けた。その後、具体的な連携作業に取り掛かった。主にはジャパンサーチから提示された連携の手順書に従って、室員の菅原がデータ連携のための作業を行った。途中何度もエラーに見舞われ、都度 NDL 担当者に質問しながら進めた。2025 年 6 月 20 日にすべての連携作業が終わり、一般公開が実現した。この時に連携したデータベース（DB）は、「自由学園 100 年＋」内で公開している資料室収蔵データ（早稲田システム SaaS に登録している資料のうち「一般公開」にしている資料群）である。

6. 学園新聞データベース（DB）の連携

収蔵資料 DB との連携は実現したが、その時点で学園新聞 DB はまだ連携できていなかった。NDL 担当者と最初に連携のための打ち合わせを持った際、担当者が注目した DB の一つが学園新聞だった。その独自性と歴史的価値は外部の方の目からも認識されていることがわかっていたが、「自由学園 100 年＋」で公開している学園新聞の DB は、早稲田システム SaaS とは別に、学園の DA を構築した際に新しくつくった別のものであった。そこで、ジャパンサーチに必要な DB の整備を DA 構築の際にお世話になった HUMI 担当者に依頼、2026 年 2 月 5 日に DB が納品された。公開作業を菅原が行い、同日にジャパンサーチ上でのテスト公開まで進んだが、NDL からのいくつかの指摘があり、その箇所について修正を行った。2 月 7 日に一般公開前まで進み、再度 NDL のチェックを受けた。同月 9 日に一般公開 OK の連絡を NDL から受け、公開が実現した。

7. ジャパンサーチ連携による資料活用効果

ジャパンサーチと資料 DB の連携が実現したことにより、資料の利活用が進んでいる。スキラム連携（DA の素材を授業活用する教材開発ワークショップ）で 1920 年代の学校劇の写真が利用された。公開資料については CCBy としているので、出典を明記すれば利用者は許可をとらなくても自由にその資料を利用することができる。よって、資料室へ申告がなくても、利用されている資料がある可能性はある。

「自由学園 100 年＋」は、詳細な年表情報なども公開しているが、教育系の論文等で利用されていることがわかっており、DA の公開、また DB のジャパンサーチとの連携によって、特に学術面で学園の資料の利活用が進んでいる。

ジャパンサーチに連携することにより、「国立国会図書館サーチ」の検索でも書誌データと共に画面の下部にジャパンサーチで連携しているデータが表示される。例えば「羽仁もと子」で検索すると画面下部の「いろいろな資料のデータベース」部分にジャパンサーチに連携している写真資料などが表示される。

8. 今後の展望

ジャパンサーチは、複数のサイトをとりまとめている「つなぎ役」のサイトと連携することが基本である。自由学園も将来的に、創立者を同じくする婦人之友社、友の会とDB連携し、それらのサイトにアクセス可能なインターフェイスを作成すれば、そのサイトがつなぎ役としてジャパンサーチに連携することが可能となる。利用者もより多くの関係資料にアクセスすることができる。

または、たとえば大正自由教育というくくりで、その時期に創立された学校の資料DBが各学校で整備され、それらを連携させてつなぎ役サイトを作れば、そのサイトがジャパンサーチと連携できるかもしれない。日本教育史の中でも、大正期の自由教育は近年再度注目されているジャンルでもあり、資料公開が進むことで学術研究も発展する可能性が高い。

一般的にデジタルアーカイブは、開設した時がゴールではなく、スタートであり、その後どのように育てていくかが重要だが、できるだけ多くの人の知的欲求が満たされるように、今後も整備を続けていきたい。

2025 年度自由学園資料室活動記録

4月1日 新入教職員対象オンライン研修動画「自由学園について」作成、新任教職員の集いに室長出席
4月10日 学外リファレンス（企業）
4月15日 創立記念日報告「「自由学園最古の生徒」は誰か？」
4月22日 体育部会へリファレンス（自由学園体操会における「行進」の取り組み）
4月26日 日本アーカイブズ学会2025年度大会参加（傍聴）
5月16日 最高学部授業（ネイバーフッドデザイン「自由学園と地域社会の関わりの歴史」）
5月21日 学外リファレンス（婦人之友社）
5月27日 学内リファレンス（初等部）
5月29日 、6月5日　最高学部授業、自由学原論「羽仁もと子における人生と自由」等
5月30日 学外リファレンス（他大学）
5月31日 学外リファレンス（個人）
6月6日 学外リファレンス（個人）
6月14日 高等部3年懇談（「遠足」について）
6月16日 DA自由学園100年＋スタッフ打ち合わせ
6月20日 羽仁先生記念館利活用案検討
6月20日 学内リファレンス（初等部）
6月20日 戦時期資料デジタル化発注
6月21日 保護者会主催読書会にて講演「羽仁夫妻の家庭教育と学校教育」
6月21日 キ同盟第70回東日本小学校教職員協議会にて講演「自由学園のキリスト教教育の始まりと今」

6月26日 全国大学史資料協議会東日本部会2025年度総会参加（於青山学院大学）
7月3日 学内リファレンス「メイポールダンス」楽譜について
7月4日 学外リファレンス
7月9日 最高学部オリエンテーション
7月17日 学外リファレンス（南沢会）
7月19日 学外リファレンス（他大学）
7月23日 初等部教職員研修会にて講演「生活そのものが教育に」
7月30日 S×UKILAM連携第10回シンポジウム参加（傍聴）
9月10日 初等部6年生社会科授業「戦時下の初等部」
9月13日 学内リファレンス（生徒／清風寮）
9月17日 初等部教職員研修会にて講演「初等部初期の教育実践から」
9月24日 学内リファレンス３件（生徒／礼拝、体操、服装）
9月26日 学内リファレンス（生徒／報告書）
10月2日 東京都退職校長会様見学会にて講演「自由学園の沿革とリビングアカデミー」
10月3日 学内リファレンス（学生／卒業式）
10月4日 保護者読書会にて講演「体操会の歴史」
10月16日 学内リファレンス（学生／卒業式お茶の会）
10月24日 学外リファレンス（友の会）
10月29日 学内リファレンス（教師／共生学）
11月8日 学内リファレンス（生徒／習字）
11月13日 【選定建築300選記念】DOCOMOMOJapan2024年度選定建築物解説シンポジウム参加（傍聴）
11月19日 学内リファレンス2件（生徒／共生学）
11月23日 JIYU1123にて講演「戦争の記憶・記録に向き合う」・資料展示「自由学園と戦争」
12月3日 中高等部授業「共生学」にて「戦争の記憶・記録ってなんだろう」
12月5日 学内リファレンス（生徒／草創期）
12月16日 学内リファレンス（生徒／音楽会）
12月22日 日図協資料保存委員会「疎開した40万冊の図書」上映会参加
2026年
1月10日 羽仁先生記念館資料調査（衣料）
1月16日 最高学部「生活芸術基礎」講義「草創期自由学園　美術教育運動の軌跡」
1月17日 学内リファレンス（生徒／報告書）
1月22日 初等部「美術」「絵の鑑賞」（５，６年生）
1月23日 初等部保護者会ミニ講演会「草創期の初等部」
1月23日 第4回デジタル文書資料管理講座（企業史料協議会主催）にて講義
1月24日 学内リファレンス３件（生徒／共生学、卒業式）
2月4日 学内リファレンス（生徒／校内の石）
2月6日 学内リファレンス2件（教師／最高学部要覧、生徒／報告書）
2月7日 保護者読書会にて講演「家庭・学校・社会を結ぶ自由学園の教育」
2月19日 学内リファレンス（学生／食記録）
2月20日 学内リファレンス（学生／農芸）
2月21日 学内リファレンス（生徒／食堂の家具）
2月28日 学内リファレンス（生徒／まとめ）
2月28日 中等部2年保護者会講演「そもそも羽仁もと子著作集ってなに？」

3月2日 学内リファレンス（生徒／報告書）
3月5日 学内リファレンス（生徒／展示）
3月6日 学内リファレンス2件（生徒／報告書、学生／音声データ）
3月7日 学外リファレンス
3月7日 学内リファレンス（生徒／報告書）
3月14日 学内リファレンス（生徒／書影）